

令和6年度 安来市立伯太中学校 学校評価書

学校教育目標・校訓		めざす学校像	めざす生徒・教職員像
自己を見つめ、他者と協働し、 未来を拓く生徒の育成 「独立・協力・技術」		1 だれもが つながり 、 挑戦 できる学校 2 だれもが 学び 、 よりよく生きていける力が育つ 学校 3 保護者・地域と 目標を共有し 、 協働する 学校	1 自他を尊重し、他者と協働できる 生徒・教職員 2 自律し、学び続ける 生徒・教職員 3 目的意識をもって粘り強く行動する 生徒・教職員 4 生徒の自己決定を大切に する教職員
学校経営の基本方針			
1 人権教育・道徳教育を基盤とした、 人間性や社会性を高める教育活動 を展開し、だれもがありのままであることができ、ともに問題解決できる、 心理的安全性を高める環境づくり を進める。 2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、 主体的・対話的で深い学びに向けた教育の質の向上 を図る。 3 学習指導要領、しまね教育魅力化ビジョン、安来市教育大綱等を踏まえ、本校の伝統を守りつつ社会の変化や保護者・地域のニーズに応じ、 学校・家庭・地域が連携して人材育成できる環境づくり を進める。 4 学校の 組織的実践力 を高めるとともに、よりよい学校運営に向け PDC Aサイクル を活用する。			
育成する力①「自己を調整する力」		育成する力②「他者と協働する力」	育成する力③「思考・判断・表現する力」
1 自己を理解する 2 感情や行動をコントロールする 3 見通しをもち粘り強く取り組む 4 内省し次につなげる		1 適切に援助を求める 2 他者の立場に立って考える 3 目的の合意を形成する 4 対話し、課題を解決する	1 言葉を学び、読み解く 2 筋道を立てて考える 3 情報を集め、活用する 4 自分の言葉でわかりやすく伝える
現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）			
1 学力の向上 今求められる資質・能力を育成するために 授業改善 を行い、 「習う」姿勢から「学ぶ」姿勢への転換 を図る必要がある。		2 心身の健康・体力の向上 望ましい生活習慣の確立 や、 運動習慣の形成による体力の向上 を図る必要がある。	3 保護者・地域との連携強化と業務改善の推進 学校運営への保護者・地域の参画 と 学校の業務改善 を推進する必要がある。
学校経営の重点			
人間性や社会性の向上		思考力・判断力・表現力の向上	心身の健康・体力の向上
・認め合い高め合う集団づくり ・自己決定の場の提供 ・自己有用感を高める活動の推進 ・自己調整力を高める指導の充実、 環境整備 ・人権教育、道徳教育の推進 ・特別支援教育の推進		・学習環境の整備、 ユニバーサルデザイン化 ・「朝の時間」の充実 ・多様な指導・教材の提供 ・協働的な学習の充実 ・課題探究型学習の充実 ・体験的な学習の充実	・望ましい生活習慣の確立に向けた指導の充実 ・体力の向上につながる活動の推進 ・保健指導、健康相談の充実 ・安全教育の充実 ・生徒理解、教育相談の充実
			地域とともにある学校づくり
			・こ小中高連携教育の推進 ・地域の教育資源を活用した学びの推進 ・教育活動の積極的な情報発信 ・家庭・地域と連携して人材育成できる環境づくり ・学校運営協議会設置の準備

自 己 評 価						学校関係者からの 意見等	評価
重点目標	目標達成のための取組	評価指標・アンケート項目	目標値	達成度	達成状況の診断・分析等		
社会人 性 の 性 向 上	・集団生活のルール・マナーの指導 ・授業、生徒会活動、学校行事、部活動等における認め合い高め合う集団づくり ・全教育活動を通じた人権教育、道徳教育の充実と、考え議論する道徳の授業づくり ・生徒が主体となる活動の推進、 教員のファシリテーター意識の向上 ・生活ノートやテスト前学習計画・記録表などを活用したセルフPDC Aサイクルの支援	・学校が楽しい（生徒） ・子どもは学校生活を楽しんでいる（保護者）	80%	116.5%	生徒90.1（1学期95.1） 保護者96.4（1学期92.0） 今後も協働的な学びを推進したい。	・中学校に伺った際、 生徒からの挨拶があり、気持ちが良い。 ・道徳の授業について、対立が起こっても折り合いをつけていけるようなテーマを取り扱ってほしいと思う。 ・物事に対する関係要因図などを作り、皆で考え思考を整理する学習活動を行ってみてはどうか。	B
		・学校や地域で挨拶をしている（生徒） ・わが子は自分から挨拶をしている（保護者）	80%	115.7%	生徒96.1（1学期99.0） 保護者89.1（1学期84.0） 積極的なあいさつは少なくなっていると感じる。		
		・他者の気持ちを考えて話したり行動したりしている（生徒） ・わが子は自分がされて嫌なことは人にしていない（保護者）	80%	119.6%	生徒97.0（1学期96.1） 保護者94.5（1学期90.0） 対立等が生じた際、対話し解決する力を高めたい。		
		・係や当番の仕事など、自分の役割を果たそうと努めている（生徒）	80%	123.8%	生徒99.1（1学期97.1） 当番活動や清掃などにまじめに取り組んでいる。		
		・計画を立てて生活したり、自分をコントロールしながら生活したりしている（生徒・保護者）	80%	95.7%	生徒85.9（1学期91.2） 保護者67.3 自律性を高める大人の関わりや支援が必要である。		
思考 力 の 判 断 上 力	・目標・めあての明示、活動の手順の可視化、試行錯誤の保障、個人の振り返りの充実、誰もが参加できる配慮・支援の実施 ・バックワードデザインによる授業づくり、ICTの効果的な活用、学校図書館の活用、TT・少人数指導の充実、外部人材の活用 ・家庭学習につながる授業づくり、選択性のある課題設定、各種テストの効果的活用 ・授業、行事、朝の時間を活用した表現活動の推進と指導の充実	・授業に主体的に取り組んでいる（生徒）	80%	113.7%	生徒91.0（1学期94.1） 学習活動にまじめに取り組む、ペアやグループでの活動も円滑に行っている。	・第1学年でのふるさと学習・キャリア学習と、第2学年での地域の職業人に学ぶ学習、第3学年での職場体験学習のつながりをもたせるとよい。地域をより深く知ってほしい。 ・ゲームやSNSなどの使用時間が長く、学習時間が短い。幼少期からスマホを持たせているケースが結構ある。	B
		・授業がよくわかる（生徒）	80%	109.8%	生徒87.9（1学期86.3） 100%となるよう、授業改善を図っていきたい。		
		・学力調査結果（全国・県平均との比較）	100%以上	93.7%	1・2年生・県・全国より低い（国数英） 3年生・県・全国より高い（国数） 今後も組織的に学力の向上に向けた取組を進める。		
		・平日学校以外での学習時間が1日平均1時間以上（生徒・保護者）	80%	54.6%	生徒47.5（1学期44.1） 保護者40.0（1学期44.0） 年々少なくなっており、問題視している。		
		・自分の考えや質問などを他者に伝えることができる（生徒・保護者）	80%	103.7%	生徒95.1（1学期90.2） 保護者70.9（1学期56.0） 今後も意識させ、伝える力を高めていきたい。		
心身 の 健 康 ・ 体 力 の 向 上	・保健体育や特別活動の時間等を通じた健康的な生活に向けた指導の充実 ・町内小学校と連携したメディアコントロール週間の設定と指導の充実 ・保健体育の授業や体育的行事、部活動を通じた体力の向上につながる活動の推進 ・保健指導と健康相談の充実 ・カウンセラーや各種アンケート等を活用した教育相談の充実	・食事・運動・睡眠について気をつけている（生徒） ・食事・睡眠等の生活リズムが安定している（保）	80%	104.8%	生徒86.0（1学期95.1） 保護者81.8（1学期66.6） 成長期においては生活リズムの安定は重要であるため、生徒・保護者とともに考えたい。	・不登校生徒が少ない。スクールカウンセラーによる教育相談を希望する生徒が多い。 ・学校内の危険予知マップを作成するなどして、危険予知の力を高める必要がある。避難訓練にも反映できる。	B
		・ゲームやネット等の時間に気をつけている（生徒） ・ゲームやネット等の使用時間が2時間以下（保）	80%	82.8%	生徒58.1（1学期61.8） 保護者74.5（1学期72.0） 時間の管理を行い、自律的に生活することの重要性について生徒・保護者と考える機会の設定を行っていきたい。		
		・体力・運動能力等調査結果（全国・県との比較） ・昨年度と比較して持久走のタイムが向上した生徒（2・3年生）の割合	100%以上	94.7%	8種目 1年女子は県・全国より高い 女子の方が男子より高い 6割以上の生徒が昨年度と同程度またはタイムが向上した 運動・体力向上の必要性について指導し、運動習慣をつけさせたい。		
		・事故や、自分や周りの人がけがをしないよう、気をつけて生活している（生徒）	80%	123.7%	生徒99.0（1学期99.0） 1日あたりの保健室利用生徒数：2.6人 けがや事故は少ないが、廊下を走るなどの行動は見られる。		
		・カウンセラーや教員による教育相談は充実している（生徒）	80%	102.5%	生徒82.0（1学期95.1） SC使用者98名（のべ人数） 定期教育相談だけでなく、普段から受容的な態度で接し、生徒が相談しやすくなる雰囲気をつくりたい。		
地域 と と も に あ る 学 校 づ く り	・こども園、小学校、高等学校と連携した教育活動の推進 ・授業・行事の公開や面談、PTA活動など家庭との連携活動の充実 ・学校の方針や様子についての情報発信 ・地域の教育資源を活用した教育活動の推進	・こ小高との連携活動			こども園：保育実習 小学校：あいさつプロジェクト、音楽祭、学校説明会 高校：キャリアガイダンスセミナー、キャリア学習（座談会） 双方ともに学びのある活動をできる限り増やしていきたい。	・中学校卒業後の進路に向け、高等学校との更なる連携をお願いしたい。 ・学校運営協議会に民間人が入り、地域の課題・学校の課題を共有し地域に広げていけるとよい。	A
		・授業・行事の公開、懇談会、面談、PTA活動など、学校と家庭の連携活動は充実している（保護者）	80%	115.8%	保護者92.7（1学期76.0） 公開授業：5月、7月、12月 参観行事：音楽祭、音楽祭 学級懇談・部活動懇談：5月 学期末面談：7月、12月 回数よりも内容を充実させたい。		
		・学校の方針や様子についての情報発信がなされている（保護者）	80%	118.1%	保護者94.5（1学期82.0） 学校だより発行：月1回 HP更新：毎週 Googleクラスルームに学級だよりや各種お知らせを掲載している わかりやすい発信を行いたい。		
		・学校は地域の教育資源を生かした教育活動を行っている（生徒・保護者）	80%	115.0%	生徒（94.1） 保護者（90.0） ふるさと学習、キャリア学習、国語、職業家庭において地域の教育資源を活用した活動を行った。		

学校評価の総括（取組の成果、次年度への改善策）

〈取組の成果〉 ・学校が楽しいと感じている生徒が多く、和やかな雰囲気で落ち着いた態度で生活している生徒が多い。 ・令和3年度より学習場面での効果的なICT活用について研究し、昨年度に中国地方放送教育研究大会で発表した。今年度は試行錯誤の保障や個人の振り返りの充実、誰もが参加できる配慮・支援の充実を図りながら、協働的な学びの充実に向け取り組んだ。教員も生徒も活用しに慣れ、必要な場面での効果的な活用が進んだ。 ・「授業がわかる」「授業に主体的に取り組んでいる」と感じている生徒が多く、ペアやグループでの学習活動も円滑に行われている。 ・今年度は87名（のべ人数）の方にご協力いただき、地域の教育資源を活用した体験的な教育活動を実施することができた。	〈次年度への改善策〉 ・計画を立てたり、自己をコントロールしたりしながら生活する力（自律性）を高める必要がある。学校生活の様々な場面で生徒の自己決定を促すとともに、生徒が創意工夫して取り組める機会を大切にし、集団としての自给力や個人の自己調整力、主体性を育成したい。また、そのためにファシリテーター力向上につながる教職員の学び合いも推進する。 ・家庭学習の充実につながる授業改善や、課題の選択性を高めるなどの工夫を行い、学習習慣の形成に向けた取組を行う。 ・多様性の理解を促し、自他を尊重し他者と共生することを体験的に学ぶ機会を大切にする。 ・各学年の系統性をもたせたふるさと学習・キャリア学習の充実を図る。
--	--